

# 社会系（地理歴史） 教科指導法



## 第5-6講 授業の分析法①

—地域・時代を「分かる」とは—

他者の「良い」授業から、どんなことを学ぶことができますか？



# 演習課題！

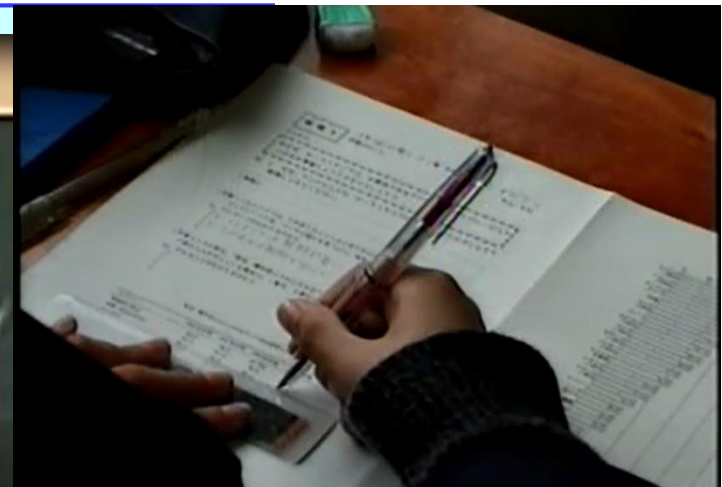
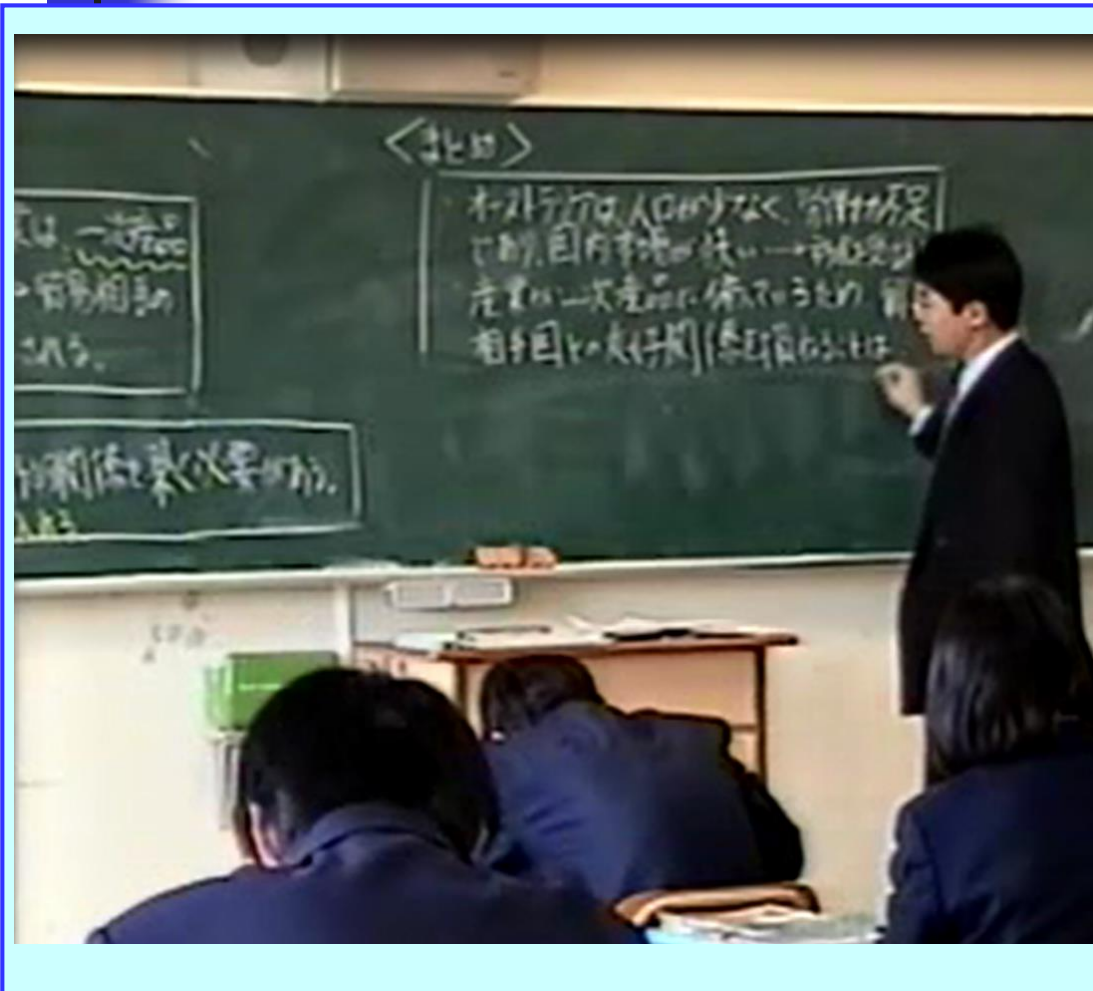
- 地理（オーストラリアの移民）の授業
  - 歴史（戦国時代の石山合戦）の授業
- 良い授業に隠れた授業づくりの秘密・条件をあばくために、2班で協力して授業を分析しよう
- (1) 授業映像を、場面を絞って視聴する。視聴後、メンチメーターで印象・感想を表現します
  - (2) 2班が協力して（奇数班は地理、偶数班は歴史を担当）、それぞれの授業づくりの特質を「ぴったり」あらわした説明文を考える
  - (3) ペアで比較の視点をよく調整した上で、比較の結論をスライド1枚にまとめましょう

## 発表の様式 ●班と●班

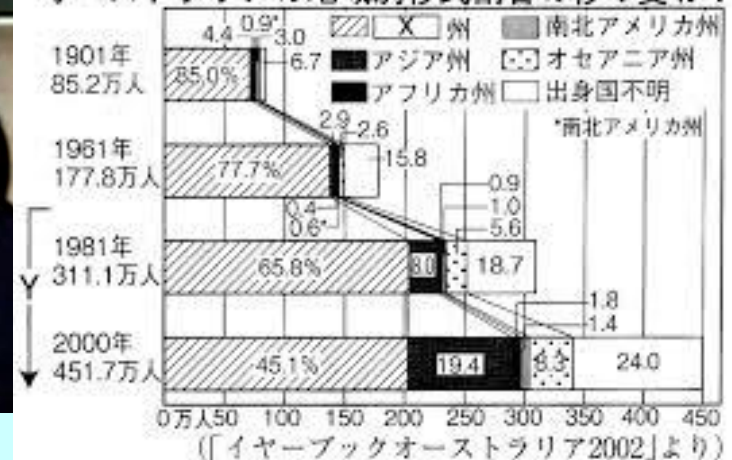
●●に着目したとき、  
地理は……(奇数班)なのに対して、  
歴史は……(偶数班)です。  
このことは、  
地理の授業の……(奇数班)から分かります。  
歴史の授業の……(偶数班)から分かります。

- ※ 自分が将来「まねしたい」ところに注目しよう
- ※ ねらい、教材の解釈・活用、指導法、教師や子どもの役割  
など、比較の視点は明確にします
- ※ 余白に、イラストや写真を入れても可です

# 1 オーストラリアの人口ー高校地理ー



オーストラリアの地域別移民割合の移り変わり





なぜアジア移民を受け入れるのか？  
…人道的な配慮（かわいそうだから）

Q123:理由を**当事国間**の視点で考える

- ・プッシュ要因…安全を求めて, 良い働き口を求めて
- ・プル要因…労働力, 購買力の不足 (昔は有色人種は排除)

Q456:理由を**国際関係**の視点で考える

- ・ヨーロッパ事情…元宗主国イギリスのEC加盟→旧顧客
- ・アジア事情…急速な工業化, 鉄・石炭の需要→新顧客

なぜアジア移民を受け入れるのか？  
…国益追求の結果（もうけるため）



# 「オーストラリアの移民」 本授業の印象・特色をキーワードで

---

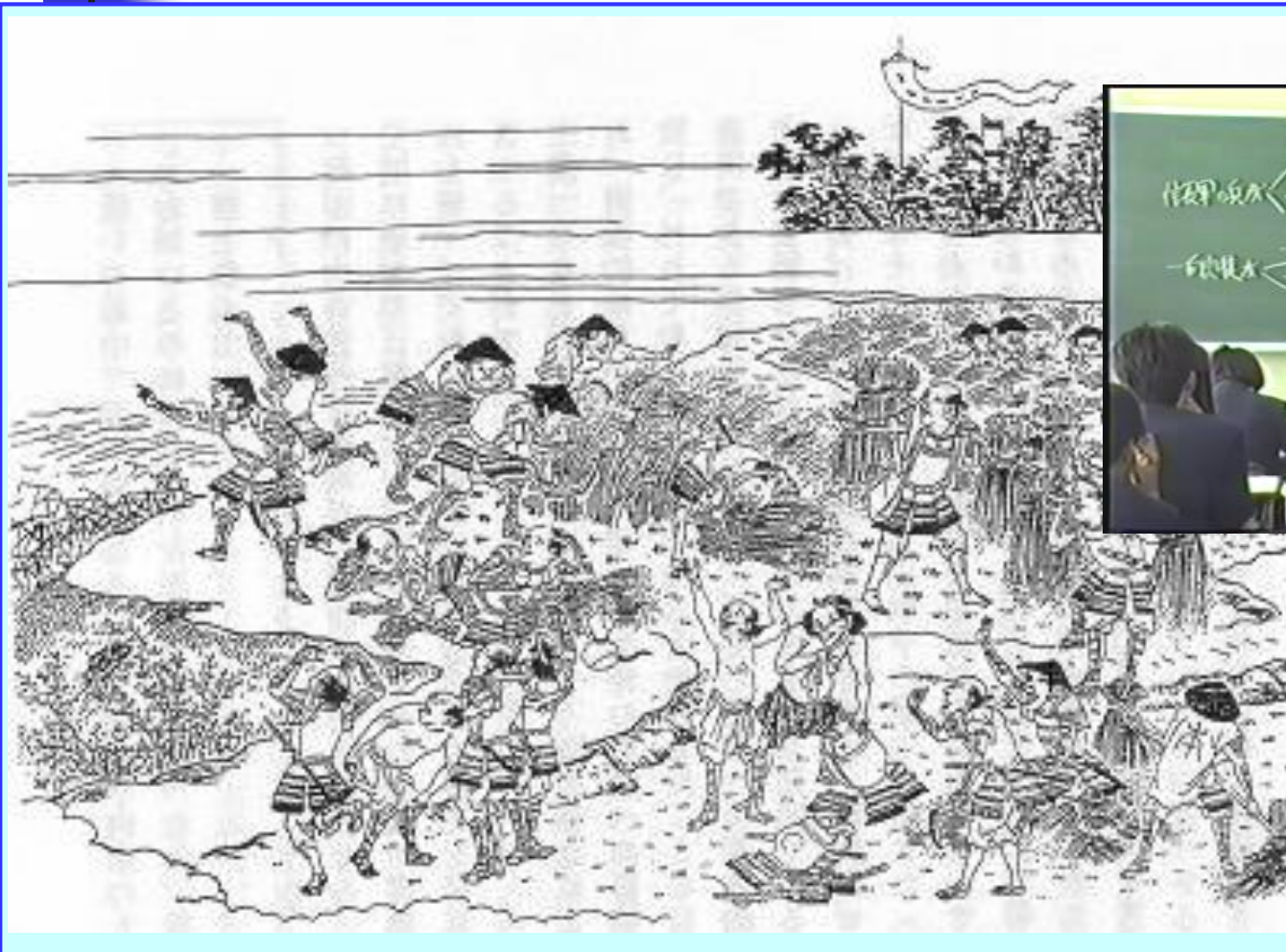
QRコード



URL

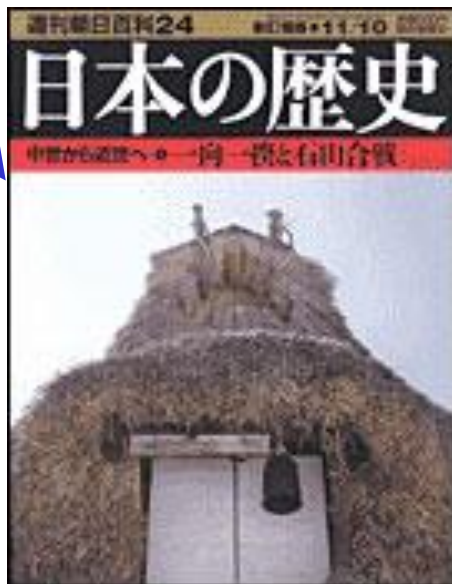
[www.mentimeter.com](http://www.mentimeter.com)

## 2 戦国時代の石山合戦—高校日本史—



『絵本拾遺信長記』  
石山合戦の図

- Q1: 資料から変なところ探し
- Q2: キャプションを付ける  
(〇〇が△△をしているところ)
- Q3: 代表的な説に分類する
- Q4: 評価と根拠を尋ねる
- Q5: 異なる資料で吟味する



	山口	五十嵐	山田	安西	島野	真鍋
<b>1. 信長軍</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食料収奪 武蔵説</li> <li>• 挑発 河村説</li> </ul>						
<b>2. 一向宗徒</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食料調達 高橋説</li> <li>• 挑発 伊藤説</li> </ul>						
納得できない→× 筋が通っている→○						





# 「戦国時代の石山合戦」 本授業の印象・特色をキーワードで

---

QRコード



URL

[www.mentimeter.com](http://www.mentimeter.com)

### 3 両実践の相違点と共通点

#### —思考力育成型と判断力育成型—

- なぜ型の問い・・・事象の原因・理由を問う
- なに型の問い・・・事象の定義・特色を問う
- 複数の教材を読み、総合して1つの解釈を引き出す
- 特定の教材を読み、異なる視点から解釈を試みる
- 共通に到達させたい解釈＝概念がある
- 共通に到達させたい解釈なし→根拠があれば多様可

#### ● 子どもの先行知を踏み台に探究させる

オーストラリアは、かわいそうな移民を引き受けた

戦国時代は、武士対武士の熾烈な国盗り合戦である



# 本日の概念3

## 科学的知識の構造と「思考力」(森分, 1997)

知識とは, 人の外に仮定される構造物である

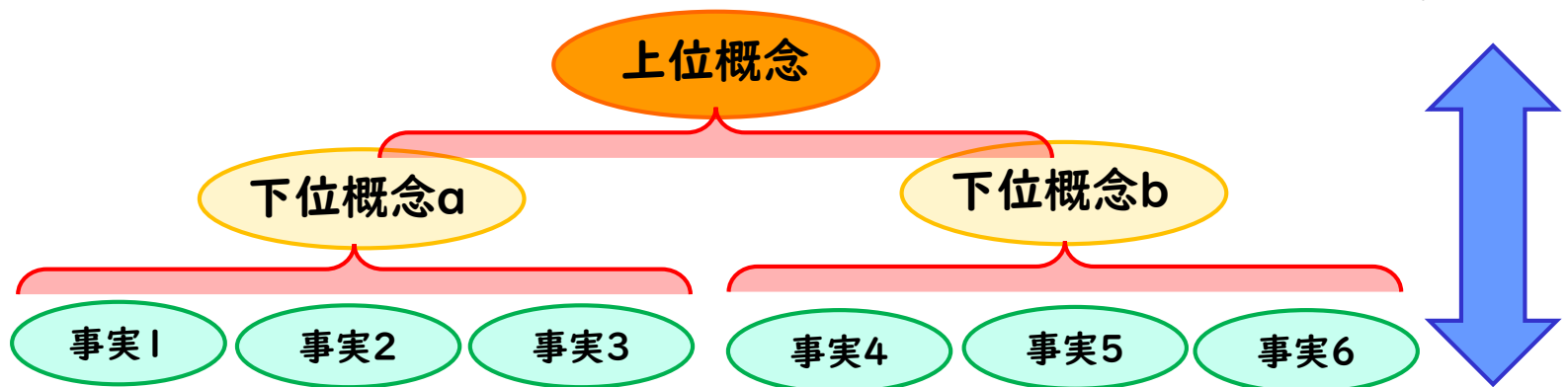
知識には, 具体的な場面・状況を記述した**事実的知識(事実)**と

一般的な法則・傾向性を記述した**概念的知識(理論)**がある

両者を往復して, 因果や意味を説明すること=**思考力**

(1) 事実を関係づけて地域・時代の特色を構築する…**帰納**

(2) 理論を適用して多様な事実の関係を分析する…**演繹**



「大正時代」のABCでは, **到達させたい概念の質**が異なる



# 本日の概念3

## トールミン・モデルと「判断力」(Toulmin, 1958)

知識とは、人と人との間に成り立つ対話である。

知識には、Data: 証拠資料 (データ), Claim: データから導かれる言説 (主張), Warrant: 主張が成立する理由 (根拠) がある。

3つを組み合わせ、Argumentを組み立てること = 判断力

- (1) 自分で主張を組み立てる…立論
- (2) 他者の主張を分析し、主張の説得力を評価する…批評

